

景況調査

報告書

No. 94

令和4年1月～3月
令和4年4月～6月

実績
見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

令和3年度第4四半期(令和4年1月～3月)景況調査

1. 調査時点 令和4年4月1日～4月25日

2. 調査対象

- (1) 対象地区 蒲郡市内
 (2) 対象(回答)企業 105 [98 企業、7 団体] 三河織物工業(協)、中部繊維ローブ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	48 (3)	8 (2)	13 (1)	21	8 (1)	7	105 (7)

※ () は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比では-26.7、前期実績(-4.0)に比較すると-22.7ポイントと下降の傾向が見られ、前年同期比では、-17.1、前期実績(-16.7)に比較すると-0.4ポイントと横バイの傾向が見られた。売上DI値は、前期比で-16.2、前期実績(19.6)と比較すると-35.8ポイントと下降の傾向が見られた。収益DI値は、前期比で-35.2、前期実績(0.0)と比較すると-35.2ポイントと下降の傾向が見られた。総合判断来期見通しは-18.1、今期の実績(全業種(当期実績)前期比-26.7)と比較すると8.6ポイントと上昇の傾向が見られた。

「製造業」のうち食料品は年末年始の需要期を抜け前年同期比・前期比ともに下回る。コロナ禍の需要減退と円安による収益性の悪化が顕著。織物は売上の減少はじめ原材料・コスト高が収益を圧迫。厳しい状況が続く。漁網・ローブは前年比で生産94.6%。販売数量98.5%。販売金額105.6%と概ね前年並みとなった一方で、今後原材料高騰と価格転嫁が懸念される。鉄工のうち<工作機械関係>日本工作機械工業会の受注総額は1月1,429億円、2月1,389億円、3月1,662億円。内需・外需ともに前年同月比を大きく上回る。当地区で同様の傾向もコスト負担増による収益悪化が不安材料。<自動車部品関係>トヨタ国内日当たり生産は1～3月にかけ1万4千台前後で推移も半導体など原材料不足やサイバー攻撃の余波など生産遅れが続く。化学工業は国内・輸出共に堅調。プラスチックは経済全体が正常化に向かい受注が戻りつつあるが、この先は不透明な状況。

「建設業」は谷間の時期で落ち着く業種もあるが、公共工事は順調に発注されている。

「卸売業」のうち、繊維卸は<産業資材>車両用基布は昨年後半から続く半導体・部品不足による生産調整で需要低迷。他資材は回復基調も原材料高の影響で回復が鈍化傾向。<インテリア>1月は昨年並。2月は閑散期で受注も落ち着く。3月は繁忙期+新商品で順調。<アパレル>原料の高騰により収益の悪化

「小売業」はまん防等の解除後に日常が戻り始めるが、消費意欲は低く売上は伸び悩んだ。飲食は制限解除後は久しぶりに日常が戻った風景も見られた。一方、ランチタイムは活況でも、夜間の飲酒を伴う団体客は引き続き慎重な動き。石油等その他小売は原油価格(WTI期近物、1バレルあたり)はウクライナ情勢でロシア原油の供給が滞る懸念から急上昇。3月初にIEA等が備蓄放出を発表するも限定的で、足元は110ドル台前半で推移。

「サービス業」のうち旅館関係は1～3月はまん防の影響で厳しい状況。固定費削減と雇用調整助成金の活用と休館も多くみられた。まん防が解除された後は春休み期間の卒業旅行も多少見られた。宿泊者ベースでは'21年比で1.6倍も'19年比では未だ40%程度。

「運輸通信業」 貨物輸送では大きな変化はないが、自動車輸出が伸び悩んでいる。

設備投資状況は、35事業所(57件)で設備投資が実施され「生産設備(31.6%)」等に投資された。来期は36事業所(54件)が「生産設備(37%)」等の設備投資を計画している。

経営上の問題点は、売上の停滞・減少、原材料(燃料)高、利幅の縮小、人手不足、競争激化、が項目別で上位を占めている。

当地区において、令和3年度第4四半期は、ほぼ全ての数値において前年同期比・前期比ともに悪化～横バイ傾向。業種別では長らく抑制されてきた飲食・観光や建設における改善傾向(主に対前年比)が見られたが、他多くの業種では横バイ～悪化になっている。

経営上の問題点では売上減少(58.1%)に次ぎ、原材料(燃料)高(47.6%)が拡大。円安も加わり、中小・小規模事業者の共通課題となっている。ウクライナ情勢の長期化による世界経済も懸念され、地域経済の先行き不透明感は続いている。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

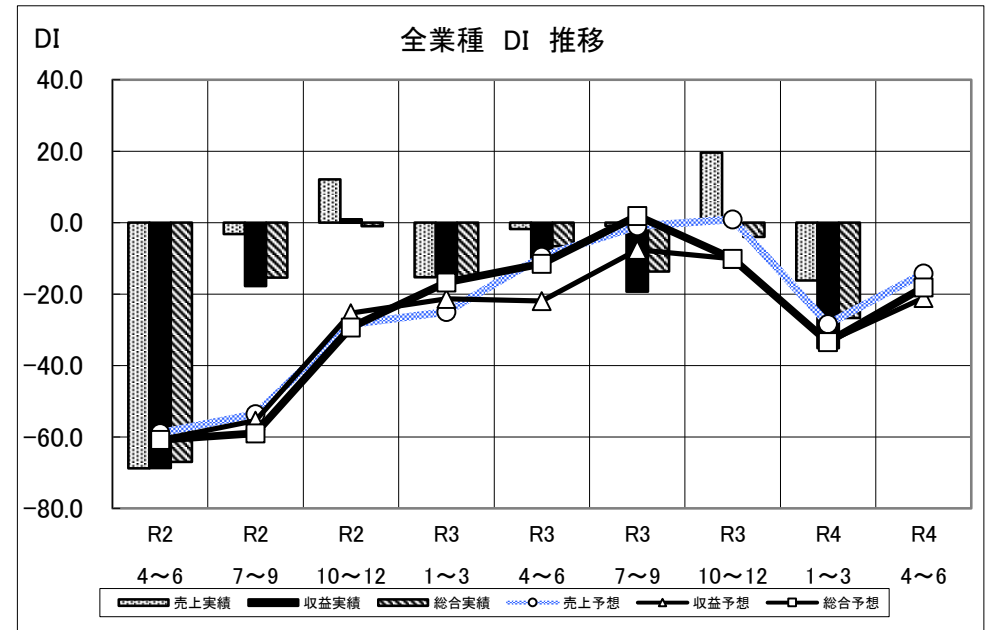
<全業種 各項目別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年1月～3月 に比べて	前期比 令和3年10月～12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月～6月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-14.3	-16.2	-14.2	R3.1～3月実績	-30.5	-15.3	-25.8	-14.3	-21.9	-15.4	-11.5
②製品・商品在庫	-4.9	-9.7	-1.9	R3.4～6月実績	17.8	-1.8	3.8	-10.5	6.6	-6.6	1.9
③資金繰り	-12.5	-17.1	-8.5	R3.7～9月実績	-12.9	-0.9	-19.3	-19.3	-10.0	-13.7	-10.1
④採算(収益)	-23.8	-35.2	-21.1	R3.10～12月実績	1.9	19.6	-19.6	0.0	-16.7	-4.0	-33.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-3.8	4.7	7.6	R4.1～3月実績	-14.3	-16.2	-23.8	-35.2	-17.1	-26.7	-18.1
⑥貴社の業況(総合判断)	-17.1	-26.7	-18.1								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	-68.8	-3.2	12.1	-15.3	-1.8	-0.9	19.6	-16.2	-14.2
収益	-68.7	-17.8	0.9	-14.3	-10.5	-19.3	0.0	-35.2	-21.1
総合	-67.0	-15.4	-1.0	-15.4	-6.6	-13.7	-4.0	-26.7	-18.1

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)
 製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)
 資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)
 従業員数 :DI=(増加)-(減少)
 業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き
 DIが0 ⇒ 景気横ばい
 DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上

DI 6~49%

DI 5~-5%



DI -6~-49%

DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は0.0、前期実績(10~12月期27.7)に比して-27.7ポイントの下降、収益DI値は-18.8、前期実績(10~12月期17.0)に比して-35.8ポイントの下降、総合判断DI値は-16.6、前期実績(10~12月期6.4)に比して-23.0ポイントの下降となった。

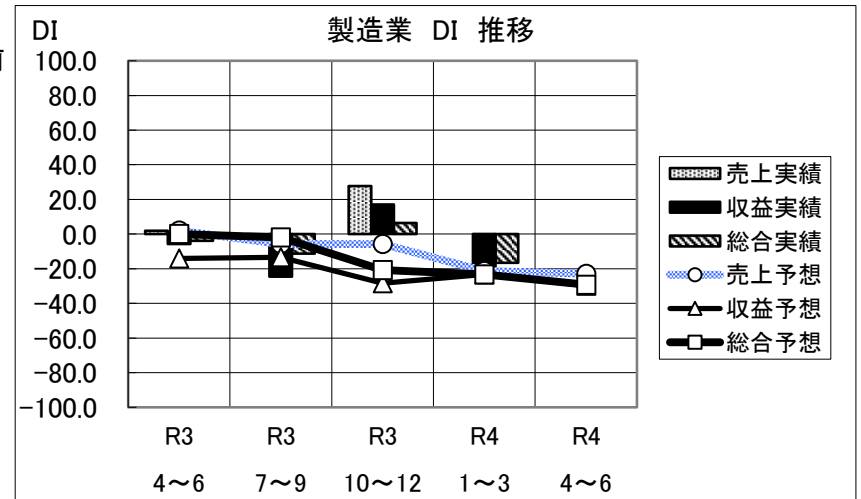
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-22.9ポイントの下降、収益DI値は-29.8ポイントの下降、総合判断DI値は-29.2ポイントの下降となっている。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-12.5	0.0	-22.9
②製品・商品在庫	-2.1	-4.2	-6.3
③資金繰り	-18.7	-18.7	-18.7
④採算(収益)	-12.5	-18.8	-29.8
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	10.4	10.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-16.6	-16.6	-29.2



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	1.9	-1.9	27.7	0.0	-22.9
収益	-5.7	-24.5	17.0	-18.8	-29.8
総合	-3.9	-11.3	6.4	-16.6	-29.2

[食料品]

売上DI値は-60.0、前期実績(10~12月期83.3)に比して-143.3ポイントの下降、収益DI値は-80.0、前期実績(10~12月期50.0)に比して-130.0ポイントの下降、総合判断DI値は-40.0、前期実績(10~12月期50.0)に比して-90.0ポイントの下降となった。年末年始の需要期を抜け前年同期比・前期比とも下回る。コロナ禍の需要減退と円安による収益性の悪化が顕著。

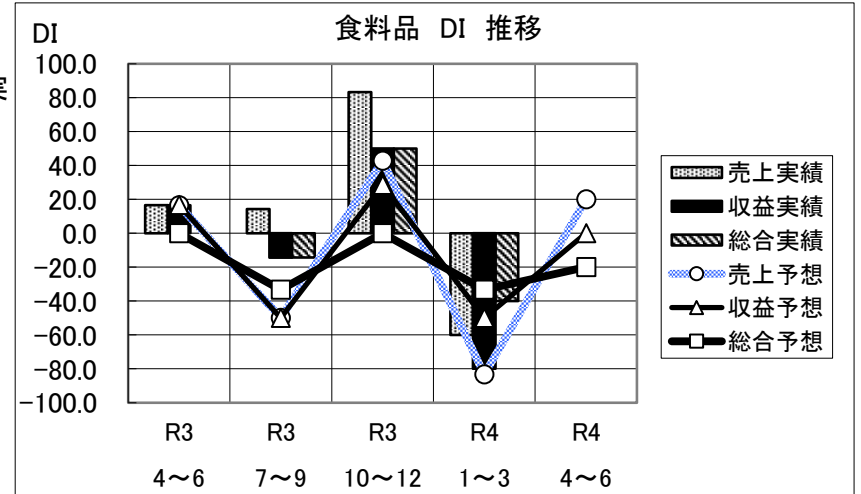
向こう3カ月の見通し

売上DI値は20.0ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は-20.0ポイントの下降となっている。

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	-60.0	20.0
②製品・商品在庫	-20.0	-20.0	0.0
③資金繰り	-20.0	-60.0	20.0
④採算(収益)	-40.0	-80.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-40.0	-20.0	60.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-40.0	-40.0	-20.0



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	16.6	14.3	83.3	-60.0	20.0
収益	16.6	-14.3	50.0	-80.0	0.0
総合	0.0	-14.3	50.0	-40.0	-20.0

【織物】

売上DI値は-66.7、前期実績(10~12月期0.0)に比して-66.7ポイントの下降、収益DI値は-33.3、前期実績(10~12月期50.0)に比して-83.3ポイントの下降、総合判断DI値は0.0、前期実績(10~12月期50.0)に比して-50.0ポイントの下降となった。売上の減少はじめ原材料・コスト高が収益を圧迫。厳しい状況が続く。

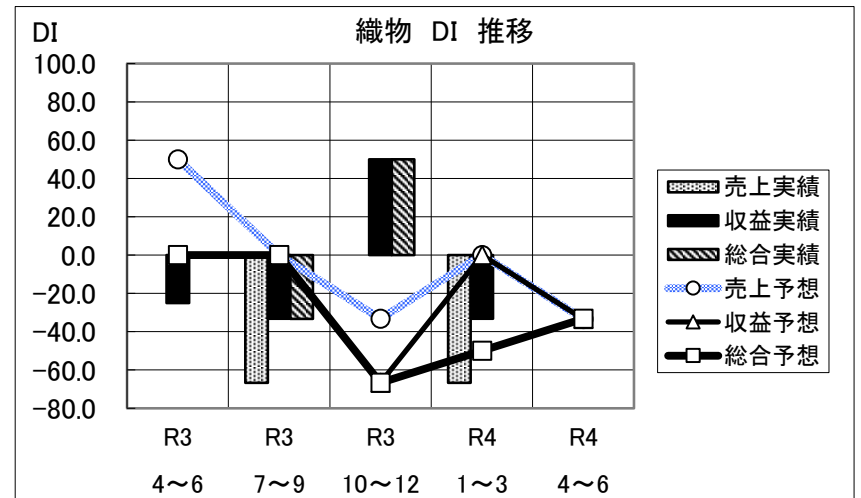
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-33.4ポイントの下降、収益DI値は-33.4ポイントの下降、総合判断DI値は-33.3ポイントの下降となっている。

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-66.7	-66.7	-33.4
②製品・商品在庫	-33.3	-33.3	0.0
③資金繰り	-33.3	-33.3	-33.3
④採算(収益)	-33.3	-33.3	-33.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-33.3	0.0	-33.3
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	-33.3



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	0.0	-66.7	0.0	-66.7	-33.4
収益	-25.0	-33.3	50.0	-33.3	-33.4
総合	0.0	-33.3	50.0	0.0	-33.3

【漁網・ロープ】

売上DI値は40.0、前期実績(10~12月期-75.0)に比して115.0ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績(10~12月期-50.0)に比して50.0ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(10~12月期-50.0)に比して50.0ポイントの上昇となった。前年比で生産94.6%。販売数量98.5%。販売金額105.6%と概ね前年並みとなった一方で、今後原材料高騰と価格転嫁が懸念される。

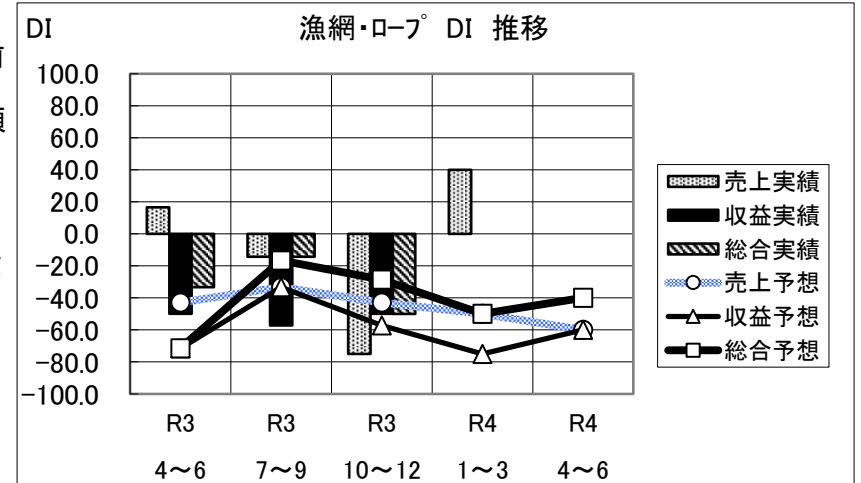
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-60.0ポイントの下降、収益DI値は-60.0ポイントの下降、総合判断DI値は-40.0ポイントの下降となっている。4~5月は例年漁業者の需要増加時期だが経済活動の低迷で不透明。また4月より原材料値上げの予定で厳しさを増す。

(漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	20.0	40.0	-60.0
②製品・商品在庫	0.0	-20.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	-20.0
④採算(収益)	20.0	0.0	-60.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	40.0	-20.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	-40.0



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	16.6	-14.3	-75.0	40.0	-60.0
収益	-50.0	-57.1	-50.0	0.0	-60.0
総合	-33.3	-14.3	-50.0	0.0	-40.0

[鉄工]

売上DI値は9.6、前期実績(10~12月期22.8)に比して-13.2ポイントの下降、収益DI値は-4.8、前期実績(10~12月期22.8)に比して-27.6ポイントの下降、総合判断DI値は-23.8、前期実績(10~12月期0.0)に比して-23.8ポイントの下降となった。<工作機械関係>日本工作機械工業会の受注総額は1月1,429億円、2月1,389億円、3月1,662億円。内需・外需ともに前年同月比を大きく上回る。当地区で同様の傾向もコスト負担増による収益悪化が不安材料。<自動車部品関係>トヨタ国内日当たり生産は1~3月にかけ1万4千台前後で推移も半導体など原材料不足やサイバー攻撃の余波など生産遅れが続く。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-28.6ポイントの下降、収益DI値は-28.6ポイントの下降、総合判断DI値は-33.3ポイントの下降となっている。

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-38.1	9.6	-28.6
②製品・商品在庫	0.0	0.0	-9.5
③資金繰り	-19.0	-4.8	-23.8
④採算(収益)	-14.3	-4.8	-28.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	19.1	23.8	19.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-23.8	-33.3

[化学・プラスチック]

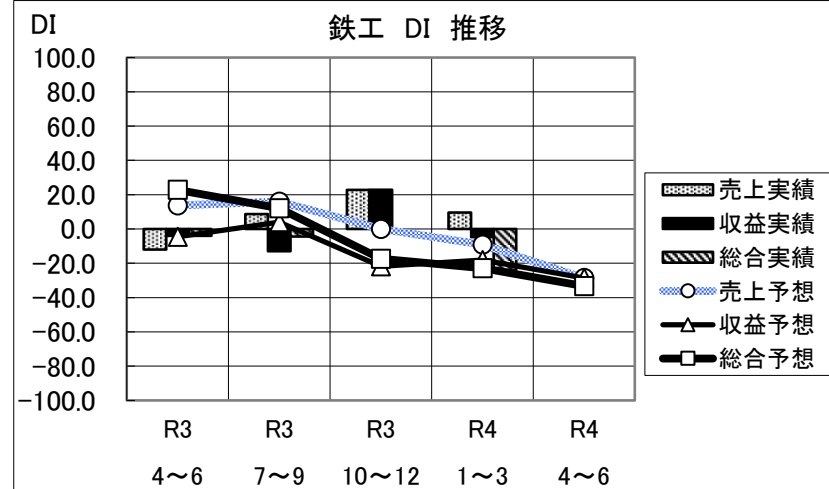
売上DI値は42.8、前期実績(10~12月期57.1)に比して-14.3ポイントの下降、収益DI値は0.0、前期実績(10~12月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は14.3、前期実績(10~12月期-14.3)に比して28.6ポイントの上昇となった。<化学>国内・輸出共に堅調。<プラスチック>経済全体が正常化に向かい受注が戻りつつあるが、この先は不透明な状況。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は14.3ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。<化学>受注は引き続き国内・輸出とも順調な見込み、懸念は石化・天然油脂関係原材料の高騰。<プラスチック>主な取引先の海外で新型コロナの拡大とウクライナ情勢の影響拡大を懸念。

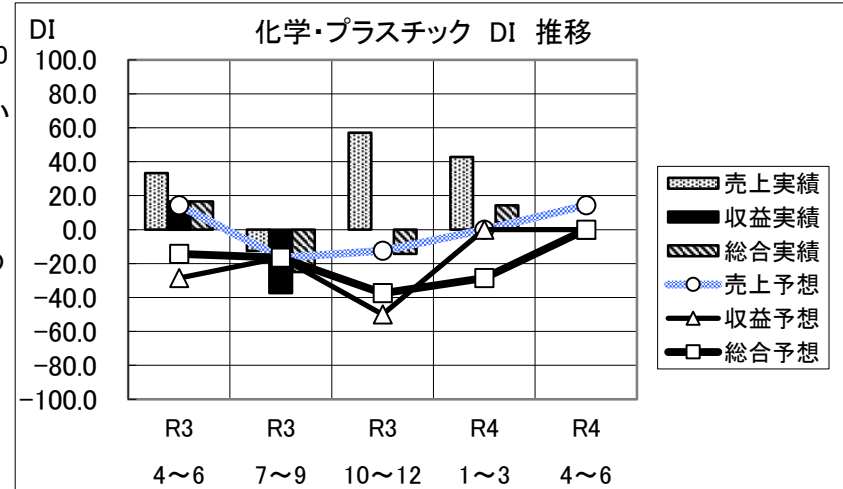
(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	28.5	42.8	14.3
②製品・商品在庫	-14.3	-14.3	-42.9
③資金繰り	-14.3	-14.3	-14.3
④採算(収益)	0.0	0.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	0.0	14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	14.3	0.0



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	-12.0	8.7	22.8	9.6	-28.6
収益	-4.0	-13.0	22.8	-4.8	-28.6
総合	-4.0	-4.4	0.0	-23.8	-33.3



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	33.3	-12.5	57.1	42.8	14.3
収益	16.6	-37.5	0.0	0.0	0.0
総合	16.6	-25.0	-14.3	14.3	0.0

建設業

売上DI値は37.5、前期実績(10~12月期-12.5)に比して50.0ポイントの上昇、収益DI値は-25.0、前期実績(10~12月期-25.0)に比して0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0、前期実績(10~12月期-50.0)に比して50.0ポイントの上昇となった。谷間の時期で落ち着く業種もあるが、公共工事は順調に発注されている。

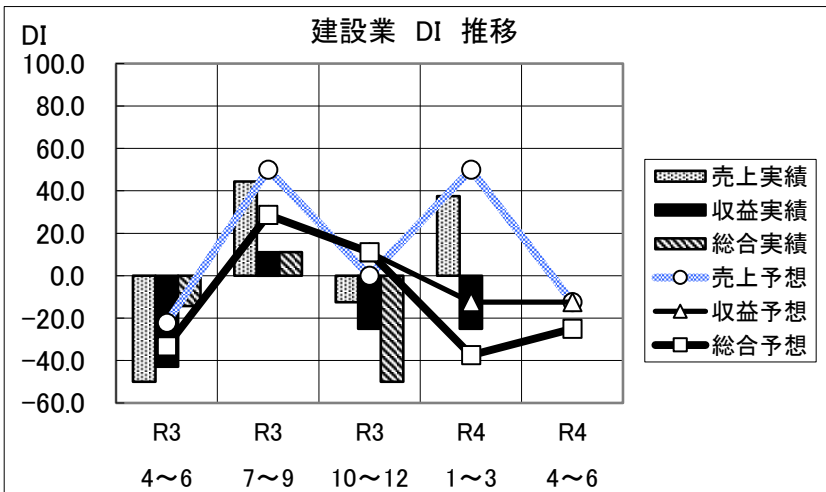
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-12.5ポイントの下降、収益DI値は-12.5ポイントの下降、総合判断DI値は-25.0ポイントの下降となっている。引き続き公共工事は堅調。現場が動き出す時期で繁忙期・人手不足の見込み。

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	12.5	37.5	-12.5
②製品・商品在庫	0.0	0.0	28.6
③資金繰り	0.0	0.0	-12.5
④採算(収益)	0.0	-25.0	-12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	12.5	12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	12.5	0.0	-25.0



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	-50.0	44.4	-12.5	37.5	-12.5
収益	-42.9	11.1	-25.0	-25.0	-12.5
総合	-14.3	11.1	-50.0	0.0	-25.0

卸売業

売上DI値は-69.2、前期実績(10~12月期-14.3)に比して-54.9ポイントの下降、収益DI値は-69.2、前期実績(10~12月期-35.7)に比して-33.5ポイントの下降、総合判断DI値は-53.8、前期実績(10~12月期-35.7)に比して-18.1ポイントの下降となった。

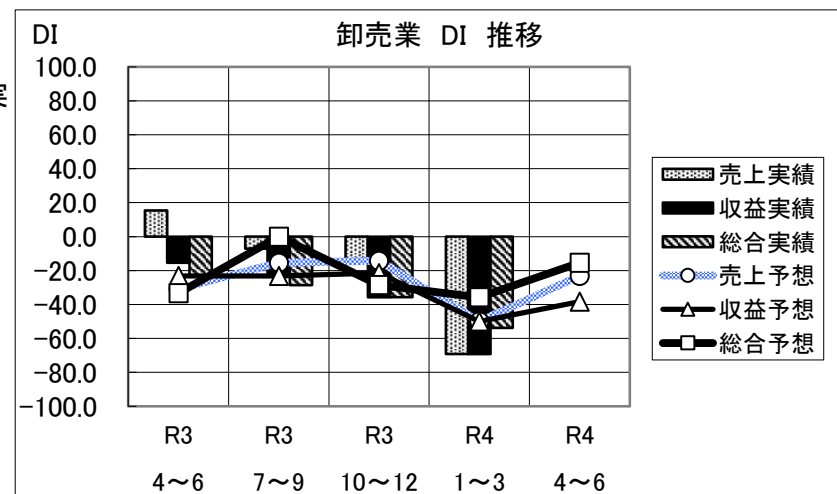
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-23.1ポイントの下降、収益DI値は-38.4ポイントの下降、総合判断DI値は-15.4ポイントの下降となっている。

卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-46.1	-69.2	-23.1
②製品・商品在庫	-53.8	-46.2	-23.1
③資金繰り	-23.1	-23.1	7.7
④採算(収益)	-53.8	-69.2	-38.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-15.4	0.0	-15.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-46.1	-53.8	-15.4



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	15.4	-7.1	-14.3	-69.2	-23.1
収益	-15.4	-21.5	-35.7	-69.2	-38.4
総合	-23.1	-28.6	-35.7	-53.8	-15.4

【繊維卸】

売上DI値は-66.7、前期実績(10~12月期-23.1)に比して-43.6ポイントの下降、収益DI値は-66.7、前期実績(10~12月期-46.1)に比して-20.6ポイントの下降、総合判断DI値は-58.4、前期実績(10~12月期-46.1)に比して-12.3ポイントの下降となった。<産業資材>車両用基布は昨年後半から続く半導体・部品不足による生産調整で需要低迷。他資材は回復基調も原材料高の影響で回復が鈍化傾向。<インテリア>1月は昨年並。2月は閑散期で受注も落ち着く。3月は繁忙期+新商品で順調。<アパレル>原料の高騰により収益の悪化

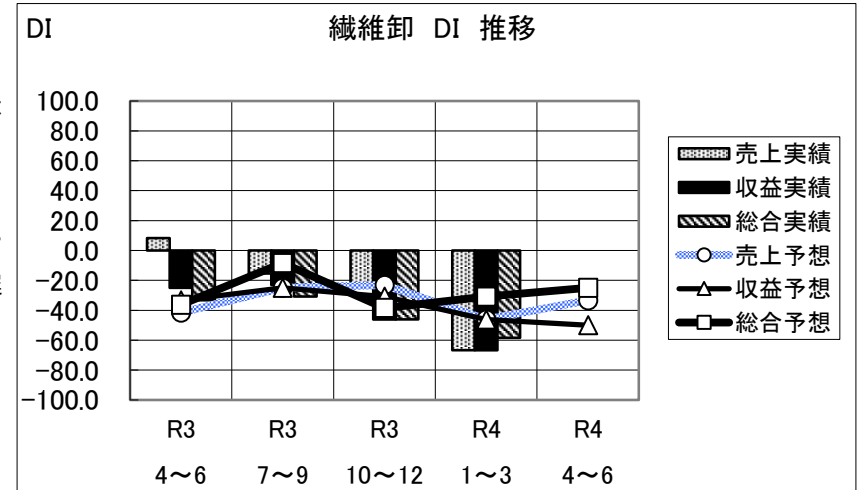
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-33.3ポイントの下降、収益DI値は-50.0ポイントの下降、総合判断DI値は-25.0ポイントの下降となっている。<産業資材>車両用基布はしばらく生産調整が続く見込み。他資材関係では更なる原材料高の影響で先行きは不透明。<インテリア>4月は例年並みも、急激な円安・コスト高の影響で以降は不透明。海外ロックダウンの影響で入荷遅れも懸念。<アパレル>イベント関係が徐々にではあるがコロナ前に戻りつつある。祭り観光用の資材生地シャンタン等の動きが良い。

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-58.4	-66.7	-33.3
②製品・商品在庫	-50.0	-41.7	-16.7
③資金繰り	-25.0	-25.0	8.4
④採算(収益)	-66.7	-66.7	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	-8.4	-16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-58.4	-58.4	-25.0



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	8.3	-15.4	-23.1	-66.7	-33.3
収益	-25.0	-23.1	-46.1	-66.7	-50.0
総合	-33.3	-30.8	-46.1	-58.4	-25.0

小売業

売上DI値は-19.1、前期実績(10~12月期5.9)に比して-25.0ポイントの下降、収益DI値は-42.8、前期実績(10~12月期-23.5)に比して-19.3ポイントの下降、総合判断DI値は-23.8、前期実績(10~12月期-11.8)に比して-12.0ポイントの下降となった。まん防等の解除後に日常が戻り始めるが、消費意欲は低く売上は伸び悩んだ。

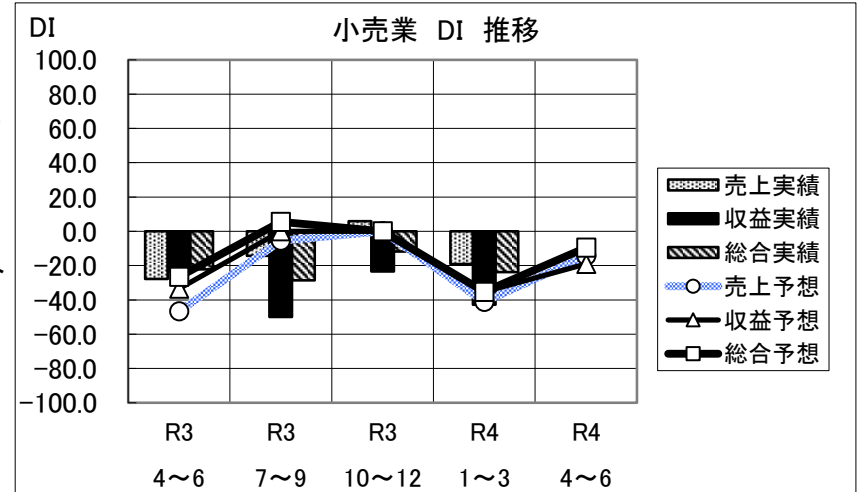
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-14.3ポイントの下降、収益DI値は-19.1ポイントの下降、総合判断DI値は-9.6ポイントの下降となっている。新型コロナの影響は緩和しつつあるが、円安・物価高による消費意欲の冷え込みを懸念。

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-38.1	-19.1	-14.3
②製品・商品在庫	14.2	0.0	9.5
③資金繰り	-10.0	-9.5	0.0
④採算(収益)	-47.6	-42.8	-19.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-9.5	-4.8	4.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-28.6	-23.8	-9.6



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	-27.8	-14.3	5.9	-19.1	-14.3
収益	-23.6	-50.0	-23.5	-42.8	-19.1
総合	-22.2	-28.6	-11.8	-23.8	-9.6

[飲食]

売上DI値は33.3、前期実績(10~12月期0.0)に比して33.3ポイントの上昇、収益DI値は-66.7、前期実績(10~12月期0.0)に比して-66.7ポイントの下降、総合判断DI値は33.3、前期実績(10~12月期33.3)に比して0.0ポイントの横バイとなった。制限解除後は久しぶりに日常に戻った風景も見られた。一方、ランチタイムは活況でも、夜間の飲酒を伴う団体客は引き続き慎重な動き。

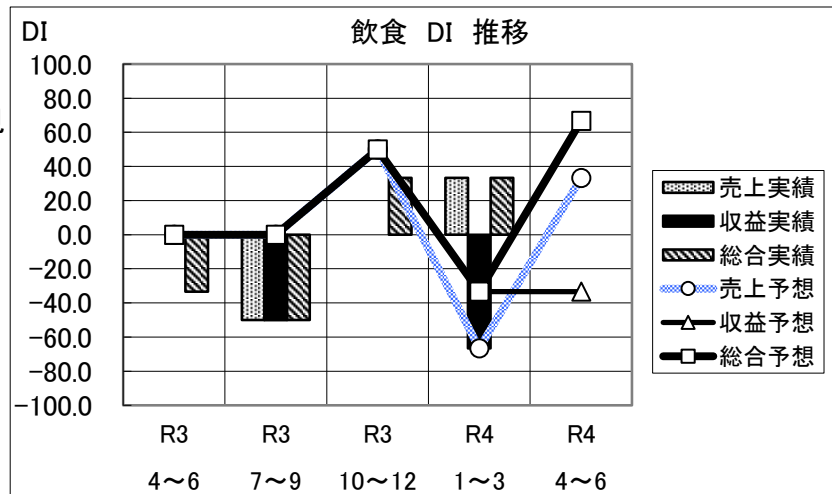
向こう3カ月の見通し

売上DI値は33.3ポイントの上昇、収益DI値は-33.4ポイントの下降、総合判断DI値は66.7ポイントの上昇となっている。消費行動は着実に平常時に戻りつつあるが、春から原材料はじめ物価高による一層の利幅縮小が進み難しい状況。

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	33.3	33.3	33.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	33.3	33.3	66.7
④採算(収益)	-66.7	-66.7	-33.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	33.3	33.3	66.7



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	0.0	-50.0	0.0	33.3	33.3
収益	0.0	-50.0	0.0	-66.7	-33.4
総合	-33.4	-50.0	33.3	33.3	66.7

[石油等その他小売]

売上DI値は-12.5、前期実績(10~12月期-33.3)に比して20.8ポイントの上昇、収益DI値は-37.5、前期実績(10~12月期-33.3)に比して-4.2ポイントの横バイ、総合判断DI値は-37.5、前期実績(10~12月期-33.3)に比して-4.2ポイントの横バイとなった。原油価格(WTI期近物、1バレルあたり)はウクライナ情勢でロシア原油の供給が滞る懸念から急上昇。3月初にIEA等が備蓄放出を発表するも限定的で、足元は110ドル前半で推移。

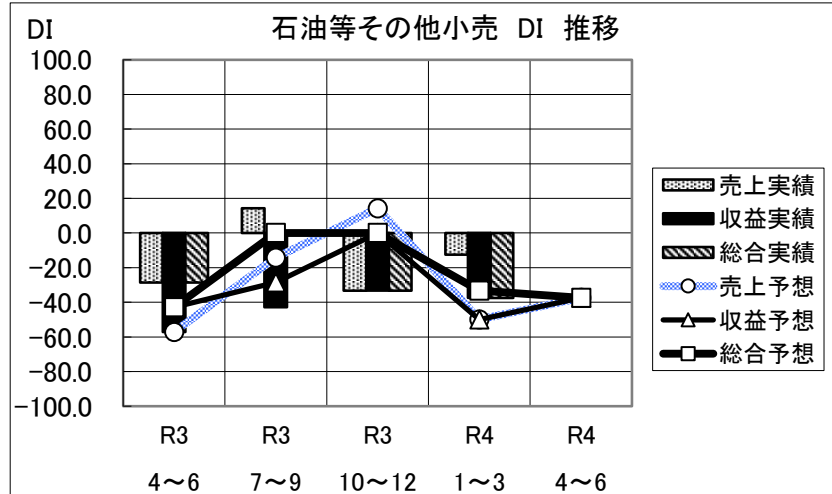
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-37.5ポイントの下降、収益DI値は-37.5ポイントの下降、総合判断DI値は-37.5ポイントの下降となっている。ウクライナ情勢・ロシアへの経済制裁等の状況が長期化の様相で、供給懸念から上振れしやすい不安定な状況が続く見込み。

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	-50.0	-12.5	-37.5
②製品・商品在庫	25.0	12.5	12.5
③資金繰り	-25.0	-12.5	-25.0
④採算(収益)	-37.5	-37.5	-37.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	0.0	12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-37.5	-37.5	-37.5



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	-28.6	14.3	-33.3	-12.5	-37.5
収益	-57.1	-42.8	-33.3	-37.5	-37.5
総合	-28.6	0.0	-33.3	-37.5	-37.5

サービス業

売上DI値は-50.0、前期実績(10~12月期55.6)に比して-105.6ポイントの下降、収益DI値は-62.5、前期実績(10~12月期44.5)に比して-107.0ポイントの下降、総合判断DI値は-62.5、前期実績(10~12月期22.2)に比して-84.7ポイントの下降となった。

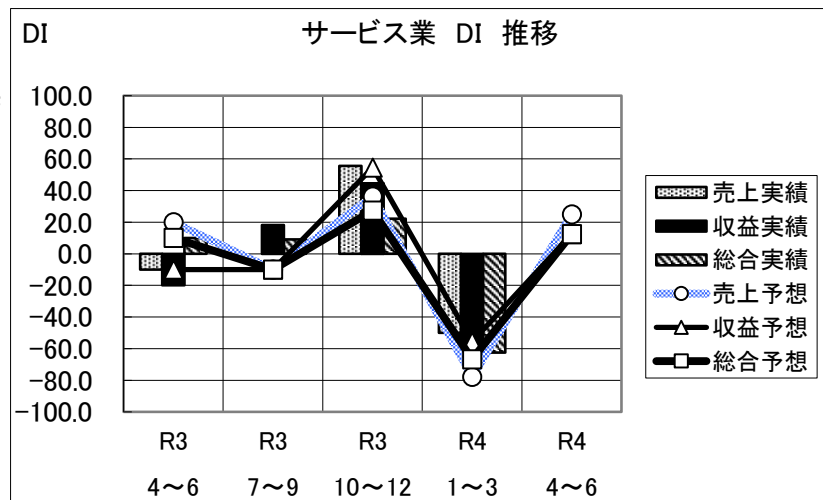
向こう3カ月の見通し

売上DI値は25.0ポイントの上昇、収益DI値は12.5ポイントの上昇、総合判断DI値は12.5ポイントの上昇となっている。

サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	-50.0	25.0
②製品・商品在庫	0.0	-25.0	0.0
③資金繰り	12.5	-37.5	0.0
④採算(収益)	25.0	-62.5	12.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	12.5	12.5	50.0
⑥貴社の業況(総合判断)	25.0	-62.5	12.5



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	-10.0	0.0	55.6	-50.0	25.0
収益	-20.0	18.1	44.5	-62.5	12.5
総合	10.0	9.1	22.2	-62.5	12.5

【旅館】

売上DI値は-60.0、前期実績(10~12月期100.0)に比して-160.0ポイントの下降、収益DI値は-80.0、前期実績(10~12月期100.0)に比して-180.0ポイントの下降、総合判断DI値は-80.0、前期実績(10~12月期80.0)に比して-160.0ポイントの下降となった。1~3月はまん防の影響で厳しい状況。固定費削減と雇用調整助成金の活用と休館も多くみられた。まん防が解除された後は春休み期間の卒業旅行も多少見られた。宿泊者ベースでは'21年比で1.6倍も'19年比では未だ40%程度。

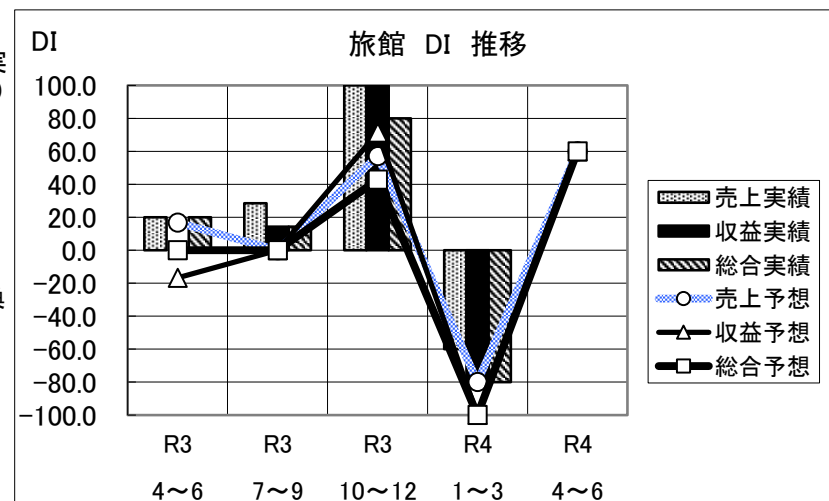
向こう3カ月の見通し

売上DI値は60.0ポイントの上昇、収益DI値は60.0ポイントの上昇、総合判断DI値は60.0ポイントの上昇となっている。引き続き客足は鈍いが、4月後半は企業・団体利用も増え、観光・潮干狩・ランチ・入浴など宿泊以外のレジャー利用も増える見込み。旅行需要が高まってきており、GoToトラベルや県民割など需要喚起策の再開にも期待。

(旅館)

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	100.0	-60.0	60.0
②製品・商品在庫	0.0	-40.0	0.0
③資金繰り	20.0	-60.0	20.0
④採算(収益)	60.0	-80.0	60.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	20.0	20.0	80.0
⑥貴社の業況(総合判断)	60.0	-80.0	60.0



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	20.0	28.5	100.0	-60.0	60.0
収益	0.0	14.2	100.0	-80.0	60.0
総合	20.0	14.3	80.0	-80.0	60.0

運輸通信業

売上DI値は-42.8、前期実績(10~12月期57.1)に比して-99.9ポイントの下降、収益DI値は-42.9、前期実績(10~12月期-14.3)に比して-28.6ポイントの下降、総合判断DI値は-42.9、前期実績(10~12月期28.6)に比して-71.5ポイントの下降となった。

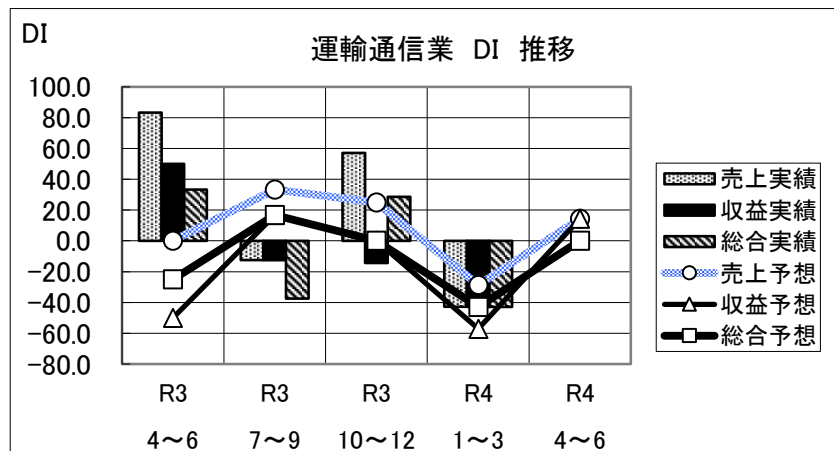
向こう3カ月の見通し

売上DI値は14.3ポイントの上昇、収益DI値は14.3ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0ポイントの横パイとなっている。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-42.8	14.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	-14.3	0.0
④採算(収益)	-57.1	-42.9	14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-14.3	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	-42.9	0.0



<業況判断DIの推移>

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	83.3	-12.5	57.1	-42.8	14.3
収益	50.0	-12.5	-14.3	-42.9	14.3
総合	33.3	-37.5	28.6	-42.9	0.0

【旅客・貨物輸送・水運】

売上DI値は-42.8、前期実績(10~12月期57.1)に比して-99.9ポイントの下降、収益DI値は-42.9、前期実績(10~12月期-14.3)に比して-28.6ポイントの下降、総合判断DI値は-42.9、前期実績(10~12月期28.6)に比して-71.5ポイントの下降となった。大きな変化はないが、自動車輸出が伸び悩んでいる。

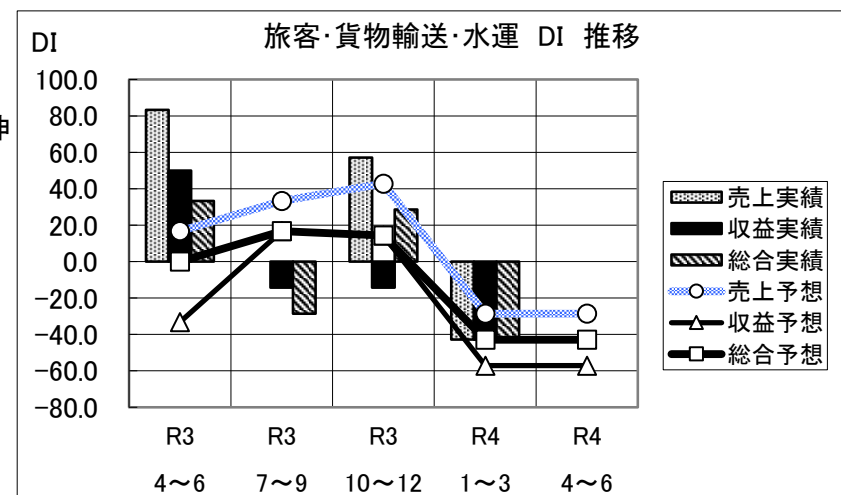
向こう3カ月の見通し

売上DI値は14.3ポイントの上昇、収益DI値は14.3ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0ポイントの横パイとなっている。同様の傾向が続く見込み。

(旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年1月~3月 に比べて	前期比 令和3年10月~12月 に比べて	来期見通し 令和4年4月~6月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-42.8	14.3
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	0.0	-14.3	0.0
④採算(収益)	-57.1	-42.9	14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-14.3	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	-42.9	0.0

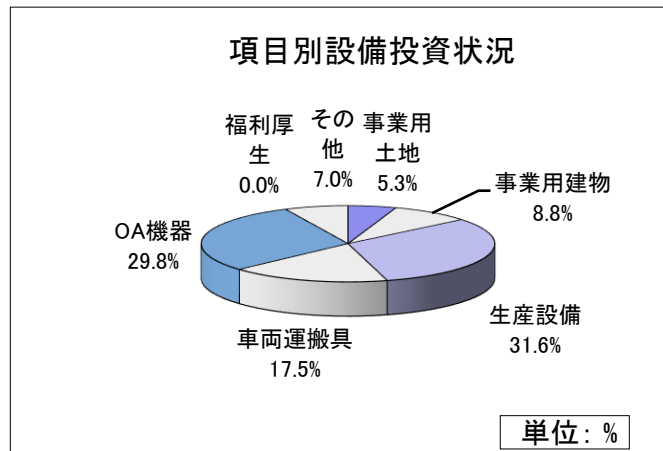
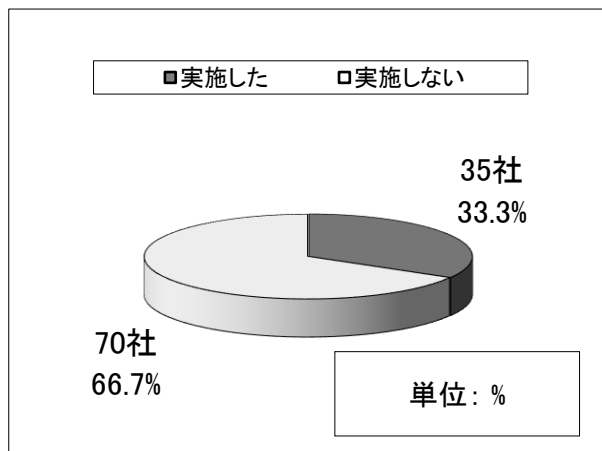


<業況判断DIの推移>

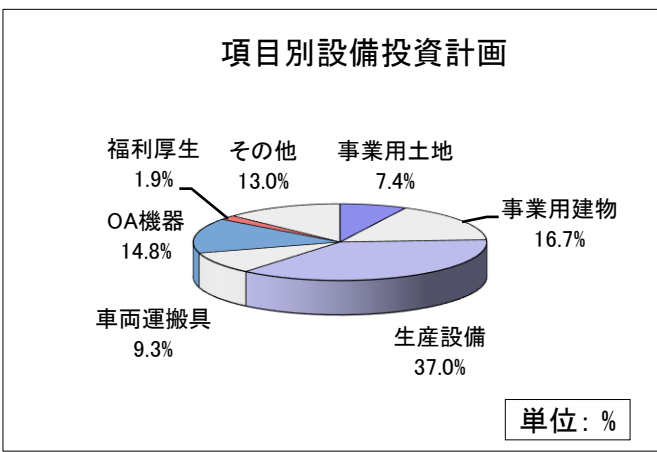
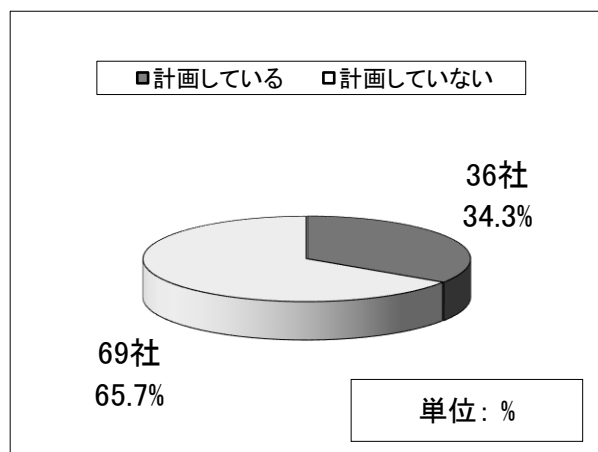
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月見通し
売上	83.3	0.0	57.1	-42.8	14.3
収益	50.0	-14.3	-14.3	-42.9	14.3
総合	33.3	-28.6	28.6	-42.9	0.0

7. 設備投資動向

＜今期 R4.1～3＞ 設備投資実施状況 全業種＞



＜来期 R4.4～6＞ 設備投資実施状況 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今期	来期見通し
事業用土地	3	4
事業用建物	5	9
生産設備	18	20
車両運搬具	10	5
OA機器	17	8
福利厚生	0	1
その他	4	7
計	57	54

(単位:件)

◎今期・来期 設備投資実施、計画動向

		全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期	R4.1～3	35	19	2	3	4	4	3
2. 来期	R4.4～6	36	23	2	1	4	3	3

(単位:事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 105 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	61 58.1%
2	原材料(燃料)高	50 47.6%
3	利幅の縮小	41 39.0%
4	人手不足	21 20.0%
5	競争激化	17 16.2%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業 48 社	売上の停滞・減少 29 社 60.4%	原材料(燃料)高 25 社 52.1%	利幅の縮小 19 社 39.6%
建設業 8 社	売上の停滞・減少 3 社 37.5%	利幅の縮小 3 社 37.5%	原材料(燃料)高 3 社 37.5%
卸売業 13 社	原材料(燃料)高 9 社 69.2%	売上の停滞・減少 7 社 53.8%	利幅の縮小 5 社 38.5%
小売業 21 社	売上の停滞・減少 12 社 57.1%	利幅の縮小 10 社 47.6%	競争激化 8 社 38.1%
サービス業 8 社	売上の停滞・減少 5 社 62.5%	消費者ニーズの変化の対応 3 社 37.5%	競争激化 2 社 25.0%
運輸通信業 7 社	原材料(燃料)高 6 社 85.7%	売上の停滞・減少 5 社 71.4%	人手不足 3 社 42.9%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No. 94

番号	調査項目	単位	R04.05報告	基準日	R04.02報告	基準日	R03.11報告	基準日	R03.08報告	基準日	出典
1	人口	人	79,085	R4.4.1	79,346	R3.12.1	79,447	R3.9.1	79,468	R3.7.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		3,189		3,198		3,211		3,224		
2	世帯数	世帯			33,179	R3.12.1	33,179	R3.9.1	34,763	R3.7.1	"
	(うち外国人)			1,507	1,540		1,572				
3	15才～65才生産人口	人	46,199	R4.4.1	47,303	R3.12.1	47,362	R3.9.1	47,406	R3.7.1	"
	(うち外国人)		2,601		2,626		2,645		2,665		
4	全国完全失業率	%	2.6	R4.3月	2.8	R3.11月	2.8	R3.8月	3.0	R3.5月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%		R4.1～3月	2.1	R3.10～12月	2.5	R3.7～9月	2.7	R3.4～6月	愛知県 「あいちの就業状況」
5	全国有効求人倍率	倍	1.22	R4.3月	1.15	R3.11月	1.14	R3.8月	1.09	R3.5月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.90	R4.3月	0.69	R3.11月	0.62	R3.8月	0.59	R3.5月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注	新設住宅着工	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出	新車販売台数(登録車)
				(船舶を除く前年同月比%)	(戸数)			前年同月比%	(万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	528.8	2.9	1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	533.4	0.0	▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	526.0	▲ 0.9	▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	521.9	0.7	▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	528.4	2.5	▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	519.2		▲ 1.7	-
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	514.9	0.9	0.1	-
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	517.7	2.0	▲ 1.0	588.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	521.3	1.7	0.4	582.1
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	525.6	1.0	▲ 0.4	586.2
2006年度	275	4.1	1.06	5.0	1,285,246	529.0	1.4	▲ 2.2	561.9
2007年度	257	3.9	1.04	2.3	1,035,598	530.9	1.2	0.9	532.0
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 16.6	1,039,214	509.5	▲ 3.4	▲ 1.9	470.1
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 15.4	775,277	492.0	▲ 2.2	▲ 0.2	488.0
2010年度	334	5.1	0.52	19.4	819,020	499.4	3.3	0.3	460.1
2011年度	284	4.5	0.65	4.2	841,246	494.0	0.5	▲ 2.2	475.3
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 7.1	893,002	494.4	0.8	1.1	521.0
2013年度	265	4.0	0.93	10.6	987,254	507.3	2.6	1.0	569.2
2014年度	236	3.6	1.09	8.0	880,470	518.2	▲ 0.4	▲ 2.9	529.7
2015年度	222	3.4	1.23	▲ 1.2	920,537	532.9	1.3	▲ 2.3	493.8
2016年1月	215	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	217	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	135.8	0.7	1.2	27.5
3月	214	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	214	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	212	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	134.2	▲ 0.1	▲ 1.1	22.3
6月	208	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月	201	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月	208	3.1	1.37	0.2	82,242	132.6	0.2	▲ 4.6	22.3
9月	202	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7
10月	198	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2
11月	200	3.1	1.41	24.5	85,051	141.6	0.2	▲ 1.5	27.3
12月	202	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4
2017年1月	202	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8
(平成29年)2月	192	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	136.2	0.8	▲ 3.8	31.2
3月	187	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0
4月	187	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4
5月	206	3.1	1.49	8.6	78,481	136.0	0.4	▲ 0.1	23.7
6月	190	2.8	1.51	3.4	87,456			2.3	31.5
7月	189	2.8	1.52	10.5	83,234			▲ 0.2	27.8
8月	185	2.8	1.52	19.7	80,562	135.1	0.8	0.6	23.3
9月	188	2.8	1.52	7.6	83,128			▲ 0.3	31.8
10月	184	2.8	1.55	12.3	83,057			0.0	23.1
11月	180	2.7	1.56	5.8	84,703	144.3	0.1	1.7	25.8
12月	181	2.8	1.59	▲ 6.6	76,751			▲ 0.1	26.2
2018年1月	164	2.4	1.59	8.7	66,358			2.0	24.3
(平成30年)2月	170	2.5	1.58	7.8	69,071	138.9	0.1	0.1	29.6
3月	172	2.5	1.59	▲ 2.8	69,616			▲ 0.2	43.8
4月	172	2.5	1.59	11.4	84,226			▲ 1.3	22.5
5月	155	2.2	1.60	15.3	79,539	137.8	0.4	▲ 3.9	23.6
6月	167	2.4	1.62	▲ 4.2	81,275			▲ 1.2	29.2
7月	170	2.4	1.63	11.3	82,615			0.1	28.1
8月	166	2.4	1.63	4.9	81,860	135.1	▲ 0.7	2.8	23.3
9月	161	2.3	1.64	▲ 5.4	81,903			▲ 1.6	30.8
10月	166	2.4	1.62	6.1	83,330			▲ 0.3	26.1
11月	169	2.5	1.63	4.0	84,213	144.3	▲ 0.2	▲ 0.6	27.9
12月	164	2.4	1.63	▲ 4.0	78,364			0.1	25.0
2019年1月	172	2.5	1.63	▲ 8.5	67,087			2.0	24.9
(平成31年)2月	160	2.3	1.63	▲ 3.7	71,966	138.9	0.5	1.7	30.0
3月	174	2.5	1.62	▲ 0.2	76,558			2.1	41.7
4月	168	2.4	1.63	▲ 6.0	79,389			1.3	23.0
(令和元年)5月	162	2.4	1.62	▲ 10.1	72,581	138.5	0.5	4.0	24.7
6月	161	2.3	1.61	0.9	81,541			2.7	29.0
7月	154	2.2	1.59	▲ 10.6	79,232			0.8	30.0
8月	154	2.2	1.59	0.9	76,034	136.9	0.0	1.0	24.2
9月	167	2.4	1.58	▲ 6.4	77,915			9.5	34.7
10月	166	2.2	1.58	▲ 8.8	77,123			▲ 5.1	19.2
11月	151	2.2	1.57	▲ 15.2	73,523	144.0	▲ 2.7	▲ 2.0	23.8
12月	145	2.2	1.57	▲ 7.9	72,174			▲ 4.8	22.6
2020年1月	159	2.3	1.49	▲ 0.8	60,341			▲ 3.9	22.1
(令和2年)2月	159	2.4	1.45	▲ 7.7	63,105	137.7	0.4	▲ 0.3	26.8
3月	176	2.5	1.39	0.1	70,729			▲ 6.0	37.4
4月	189	2.6	1.32	▲ 10.1	69,162			▲ 11.1	17.2
5月	198	2.9	1.20	▲ 20.9	63,839	126.2	▲ 7.9	▲ 16.2	14.7
6月	195	2.8	1.11	▲ 22.4	71,101			▲ 1.2	21.4
7月	197	2.9	1.08	▲ 17.9	70,244			▲ 7.6	23.9
8月	206	3.0	1.04	▲ 17.0	69,101	131.0	5.3	▲ 6.9	19.7
9月	210	3.0	1.03	▲ 1.5	70,186			▲ 10.2	29.3
10月	215	3.1	1.04	▲ 1.2	70,685			1.9	25.3
11月	195	2.9	1.06	1.3	70,798	143.1	1.9	1.1	25.3
12月	194	2.9	1.06	18.7	65,643			▲ 0.6	24.3
2021年1月	197	2.9	1.10	▲ 1.0	58,448			▲ 6.1	23.6
(令和3年)2月	194	2.9	1.09	39.8	60,764	135.0	▲ 0.5	▲ 6.8	26.2
3月	188	2.6	1.10	▲ 5.4	71,787			6.2	38.4
4月	209	2.8	1.09	14.7	74,521			13.0	21.0
5月	211	3.0	1.09	41.1	70,178	133.9	0.6	11.6	19.3
6月	206	2.9	1.13	35.5	76,312			▲ 5.1	23.4
7月	191	2.8	1.15	43.9	77,182			0.7	23.4
8月	193	2.8	1.14	20.6	74,303	130.9	▲ 0.7	▲ 3.0	20.6
9月	192	2.8	1.16	12.6	73,178			▲ 1.9	20.5
10月	183	2.7	1.15	28.3	78,004			▲ 0.6	17.6
11月	182	2.8	1.15	24.7	73,414	141.9	1.1	▲ 1.3	21.9
12月	171	2.7	1.16	17.6	68,393			▲ 0.2	21.8
2022年1月	185	2.8	1.21	20.0	59,690			6.9	20.7
(令和4年)2月	180	2.7	1.22	▲ 16.8	64,614			1.1	21.3
3月					76,120				32.7

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)